

赤十字いわて

No. 67
2026
夏季・秋季号



特集

・日赤岩手県支部の
大槌町林野火災対応

～発災当初からの迅速な動き～

・赤十字講習100周年

事業のあゆみと指導員の想い



日本赤十字社は2027年に
150周年を迎えます。

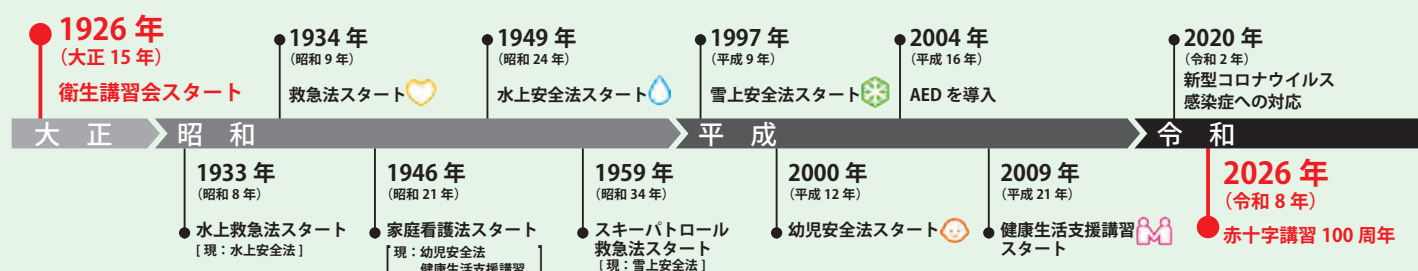
 日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字講習 100 周年

赤十字講習事業の 100 年の歩み

赤十字講習事業の源流は、大正 15 年（1926 年）12 月 23 日に本社から全国へ実施を通達された「衛生講習会」です。この講習会が現在の講習の原型とされており、ここを起点とすると赤十字講習事業は令和 8 年（2026 年）12 月に 100 周年を迎えることになります。

この間、変わりゆく時代背景のなか、社会のニーズに柔軟に対応しながら、赤十字講習は常に進化を続けてきました。講習種別は広がり、現在まで多くの人々に学びの機会を提供してきました。



講習 100 周年記念企画



1. キャラバン隊プロジェクト

全国47都道府県で講習体験イベントを実施します。

岩手県支部は6月7日イオンモール盛岡で開催しました。(右)



2. 記念シンポジウム(12月13日:日本赤十字社本社)

3. 写真アーカイブ&モザイクアート企画

4. 講習100周年記念ハートラちゃん、記念ロゴマーク

5. 講習100周年記念受講証

6. 講習100周年特設Webページの公開(右バーコード)



今後の講習予定(変更になることもありますので、お申込みの際はホームページでご確認ください)
満15歳以上なら誰でも参加できます

講習種別	開催日程	会場
救急法基礎講習	令和 8 年 11 月 7 日(土)	盛岡市立桜城小学校
	令和 8 年 12 月 5 日(土)	久慈市総合福祉センター
	令和 9 年 3 月 5 日(金)	日本赤十字社岩手県支部
救急員養成講習 (基礎講習を修了された方対象)	令和 8 年 12 月 12 日(土)～13 日(日)	久慈市総合福祉センター
	令和 9 年 3 月 6 日(土)～7 日(日)	日本赤十字社岩手県支部
幼児安全法支援員養成講習	令和 8 年 10 月 3 日(土)～4 日(日)	日本赤十字社岩手県支部
	令和 8 年 11 月 28 日(土)～29 日(日)	大船渡市総合福祉センター
健康生活支援講習支援員養成講習	令和 8 年 9 月 26 日(土)～27 日(日)	日本赤十字社岩手県支部
	令和 8 年 11 月 14 日(土)～15 日(日)	

赤十字講習 100 周年。

これまでも、そしてこれからも、
岩手県内の赤十字講習を支える
大きな力である指導員の皆さま。

講習普及活動にける想いや
その原動力について
お話を伺いました。



救急法指導員
木村 学さん

次の100年へ向けて

100年という長きにわたり受け継がれてきた日赤講習の一員となれたことを、大変うれしく思います。また、この大きな節目に指導員としての第一歩を踏み出せたことを誇りに思います。これからの100年に向けて、なお一層経験を積み重ねながら、「日赤の使命」と「命を守る技術と勇気」を一人でも多くの皆さまにお伝えし、共に学び続けていきたいと思っています。



救急法指導員
小久保 謙治さん



いのちをまもる勇気
つないだ100年
これからも

時代は変わりました。
社会も、災害のかたちも変わりました。
けれど、変わらなかったものがあります。
それは、支えてくださる人の存在です。

救いたい、その想いを次へ

「指導員にな리なさい♥」——東日本大震災から数か月後に受講した基礎講習での一言をきっかけに、私は救急法指導員に。以来12年、240回を超える講習で9,300人以上に知識と技術を伝え、実際の人命救助にも携わりました。原点にあるのは、災害現場で感じた「できなかった」という自責の念。だからこそ、「救いたい」という思いを行動に変える力を一人でも多くの人に伝え、先輩方が築いた100年の歴史を次の100年へつないでいきたいと思っています。

誓いの言葉とともに

中学生の頃に触れた「青少年赤十字の誓いの言葉」は、今も私の活動の原点です。講習は、受講者の皆さまへ知識と技術をお伝えするだけでなく、自ら学び続ける機会でもあります。多くの方々との出会いに支えられながら、自分が受け取った赤十字の精神を次の世代へつなぐ一助となれることをうれしく思います。これからも一つひとつの講習に真摯に向き合い、「命を守る技術と勇気」を伝え続けてまいります。



幼児安全法指導員
山本 和代さん

子どもたちの笑顔を守るために

幼児安全法指導員として保育施設等で講習を担当する中で、受講者の皆さまの真剣な学びの姿に触れ、私自身も多くの気づきと学びを得ています。講習を通じて、子どもたちの安全を守る知識と技術の大切さを改めて実感するとともに、その思いを共有できることに大きなやりがいを感じています。これからも赤十字の理念を大切にしながら、安全・安心な地域づくりに貢献してまいります。



幼児安全法指導員
郷六 千賀子さん



救急法指導員
幼児安全法指導員
健康生活支援講習指導員
高見 静子さん

人道を伝えて27年

赤十字の理念である「人道」に基づき指導員活動を始めて27年。救急法、幼児安全法、健康生活支援講習を通じて多くの方々との出会い、学ばせていただいたことは、私にとってかけがえのない財産です。受講者の皆さまとの交流を通じて、人々とのつながりや支え合うことの大切さを実感してきました。これからも岩手県内で、一人でも多くの方々の健康の保持・増進に寄与するとともに、赤十字の理念と活動を伝えてまいります。

令和8年度は、11月～12月に救急法指導員、
2月～3月に健康生活支援講習指導員を養成する予定です。
あなたも赤十字講習ボランティアに参加してみませんか？

令和8年大槌 発災当初から

災害対策本部

発災直後の4月22日から、支部災害警戒本部を立ち上げ、翌日23日には、災害対策本部に切り替えました。

さらに、大槌町に人員を派遣し、大槌町保健センター内での現地保健医療福祉調整本部の立ち上げに協力し、朝・夕にWEB会議で、盛岡市の支部と連絡調整・情報整理を行いました。



こころのケア

※ 災害時に災害医療の総合調整を行うスタッフ
避難所の開設に伴い、日赤岩手県支部では、4月23日～30日まで日赤災害医療コーディネートスタッフ※、「こころのケア」班を現地に継続派遣しました。

「こころのケア」は、災害によるストレスを受けた全ての被災者を対象として、精神的ダメージ、心身の疲労、避難生活等から生ずると考えられるストレス状態の軽減を図ります。避難所の環境整備（ダンボールベッドの展開）や、感染防止対策の指導、被災者の心に寄り添った傾聴活動を行いました。



義援金の受付

被災された方の支援のため、日赤岩手県支部では、岩手県地域防災計画に基づき、令和8年5月7日から令和8年8月31日までの予定で「令和8年大槌町林野火災義援金」を受け付けています。

皆さま方からお寄せいただきました義援金は、岩手県の義援金配分委員会を通じ、大槌町へ全額を届け、被災された方の被害状況に応じて公平に配分されます。

**日本赤十字社岩手県支部 令和8年大槌町林野火災義援金受付金額
(令和8年6月30日集計時点)**

6,800,276円



トヨタ自動車東日本株式会社
三層会様より義援金の贈呈

大槌町林野火災 の迅速な動き

令和8年大槌町林野火災 概要

延焼範囲	約1,708ha (町総面積の約8.5%)
人的被害	ケガ2名
物的被害	建物被害 8棟 (小槌 7棟、吉里吉里 1棟)
避難指示	1,558世帯3,257人 (町人口の約3割)
避難所	9ヶ所開設



支援団体で日赤が一番連絡が早かった

発災当日、支援団体の中では日赤から一番早く連絡が来たのを覚えています。翌日には県（釜石保健所）、DMAT（災害派遣医療チーム）、日赤と今後の対応を相談することができ、大槌町保健医療福祉調整本部も設置されました。

保健医療福祉調整本部があることで、支援団体をスムーズに受け入れることができ、町の災害対策本部等で挙げた課題への対応や、日々の活動調整までしていただき大変助かりました。

火災の状況により避難所が拡大、縮小する中で、保健医療福祉の観点から避難者の健康管理やこころのケアをはじめ、避難所内の環境整備と救援物資の展開まで積極的に実施いただいたことが、健康被害がゼロという結果に繋がったのだと思います。



大槌町 健康福祉課
(日赤大槌町分区) 課長
小國 晃也 様

被災者に対する優しい声かけを目の当たりにして、 安心してお任せすることができた

発災当初は、町の保健師だけでは避難所を回り切れず、日赤が避難所を回って、同じ保健医療福祉の観点で、避難所の環境を把握していただき、さらに要支援者についても共有いただけたことで、行政として速やかに対応することができました。

また、避難所での健康管理のための環境改善として、すぐに弾性ストッキングやダンボールベッドに敷くマット等を展開していただきました。現場で一緒に考え、自ら動いて対応し、丁寧な共有でとても助かりました。避難所で日赤のチームが被災者に優しくお声がけする場面をお見かけし、被災者が安堵の笑顔を見ていたことで、「避難所対応は日赤にお任せしても大丈夫だな」と感じました。



大槌町 健康福祉課
主任保健師
小笠原 亜弥子 様

昨年の大船渡市林野火災対応の経験を活かす

大槌町保健センター内に設置された保健医療福祉調整本部で、「大槌町の保健・医療・福祉を支える」という方針のもと、すべての支援団体が一丸となって、町職員の皆さまへなるべく負担をかけないよう、日赤チームの活動調整や支部との連絡調整、保健医療福祉調整本部の運営支援を行いました。

また、昨年の大船渡市林野火災の経験を踏まえ、対応の長期化を見越して早い段階で人員を確保し、日赤災害医療コーディネータスタッフと、こころのケア班を保健医療福祉調整本部が解散するまで派遣し続けることができました。

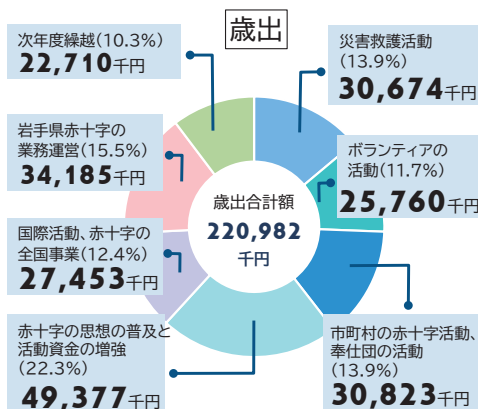
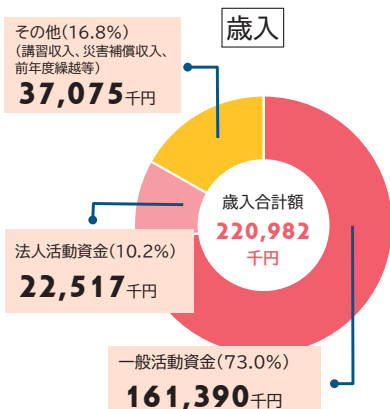


日本赤十字社岩手県支部
事業推進課長 高柳 明子 (左)
救護係長 種田 伸吾 (右)

皆さまからお寄せいただいた活動資金でこうした活動ができました。
引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

令和7年度決算報告

6月3日、令和8年度第1回評議員会を開催し、令和7年度事業報告と歳入歳出決算が審議され、本社代議員会で承認されました。皆さまからのご支援を赤十字の活動に有効に活用させていただきました。



整備の一例をご紹介します



赤十字災害救援車



安眠セット(簡易マット、空気枕、アイマスク、耳栓など)

※ 上記には、令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金は含まれておりません。
 ※ 病院、血液センター、社会福祉施設は施設毎の特別会計になっており、この決算には含まれておりません。

相続・終活セミナーのご案内

個別相談もできます

令和6年4月1日、相続登記の義務化がスタートしました。
 この機会に相続登記の義務化を含め、「相続」、「遺言」について考えるきっかけにしてみませんか？

今年度のセミナーを11月15日(日)13時から一関市のSWS 東日本シビックホール一関(一関文化センター)で開催します。

希望者の個別相談も行い、参加料無料です。

お一人でも、ご夫婦でもご興味のある方はお気軽にご参加ください。

申し込みは、ホームページまたはお電話でお願いいたします。



昨年度のセミナーの様子

「さんさ踊りハートラちゃん」が誕生しました!!



5月11日、日本赤十字社は、47都道府県の地域ごとの特色や魅力を取り入れた「全国ご当地ハートラちゃん」を発表し、岩手で「さんさ踊りハートラちゃん」が誕生しました!!
 世代を超えて受け継がれてきたさんさ踊りのエネルギーをハートラちゃんの姿に重ねることで、岩手の活気や人の温かさを表現したいと考え、このデザインにしました。

2027年(令和9年)、創立150周年を迎える日本赤十字社。全国ご当地ハートラちゃんを通じて、各地で展開している「苦しんでいる人を救う」ための赤十字活動に、より親しみをもって参加いただきたいと願っております。

今後とも「さんさ踊りハートラちゃん」をよろしくお願いします!

高額寄付者のご紹介

昨年11月~今年6月に岩手県支部へ10万円以上のご寄付をいただき、掲載のご了承をいただいた個人様・法人様のお名前を紹介しています。(順不同・敬称略)

個人

- ・佐々木 猛(八幡平市)・菅野 伸一(遠野市)・井戸淵 春男(軽米町)・佐藤 昶僖(一関市)
- ・三條 哲也(盛岡市)・山本 忠(盛岡市)・高西 良介(盛岡市)・遠藤 武(八幡平市)
- ・山口 昌六(遠野市)・久保 直彦(盛岡市)・田村 繁則(盛岡市)・吉田 春彦(盛岡市)

法人

- ・(有)アクティブ(奥州市)・(有)プレゼンハウス(盛岡市)・(有)佐藤電設(一関市)
- ・(株)岩本電機(洋野町)・岩手県医師信用組合(盛岡市)・(株)IJTT北上工場(北上市)
- ・(株)リバティワン(盛岡市)・第一商事(株)(盛岡市)

寄付金付き自動販売機設置企業のご紹介

新たに設置いただいた企業様をご紹介します。(敬称略)

- ・(株)メディカルサポート(盛岡市)

※令和8年6月30日時点 県内で73台設置

